

校歌の由来

本校の校歌は、昭和32年3月9日に制定されました。それまでは、校歌がないままであったとのことです。昭和31年、当時の3学年主任であった江成正義教諭と佐野たけ教諭が中心となり校歌をつくることが提案されました。両教諭は、「情操教育の一環として、本校にふさわしい校歌をつくろう」という想いがあったとのことです。

校歌は、作曲家の平井康三郎氏、作詞家の勝承夫氏に依頼しました。本校にふさわしい校歌をつくるために、学校とPTAは、両氏を招いて学区の名所旧跡を案内し、座談会を開いて学区の地理的・歴史的な説明をしたとのことです。また、校歌作成にかかる費用の一部は、佐野たけ教諭を中心に行った廃品回収や本校周辺に咲くユリの切り花・手縫いの雑巾の販売などで得られたものが充てられました。

昭和32年3月9日に行われた「校歌発表会」は、平井康三郎氏と勝承夫氏を招いて盛大に行われました。作曲した平井康三郎氏は、最も力を注いだ「きらめく太陽、燃え立つ若葉」の歌い出しについて、お話しされました。歌い出しの「ドミソ、ミソド」の旋律は、トランペットのファンファーレを表現しており、校歌は「加曾利中の生徒たちよ、意気高くあれ！」という願いを込めた応援歌であると語られたとのことです。

平成28年、校歌は創立70周年を記念して混声四部合唱に編曲されました。混声四部合唱となった現在も、校歌制定当時の想いを引き継ぎ、生徒たちは美しいハーモニーを響かせています。